

原油市況

原油価格（WTI期近物）は、8月30日に終値で69.81ドルと史上最高値を記録。堅調な米国経済を背景に輸送用燃料などの需要が拡大する一方、米国の石油精製能力が限界に近いことや相次いだ製油所火災のほか、大型ハリケーン「カトリーナ」の上陸により一段高となった。その後はIEA(国際エネルギー機関)による先進国の石油備蓄を放出する対策が講じられたことを受け下落に転じたが、「リタ」の接近・上陸で再上昇する場面もあった。9月下旬には64ドル台まで低下したものの、当面は原油価格の高止まりが予想される。

米国経済

米国では、05年4～6月期の実質GDP成長率（改定値）が前期比年率3.3%となり、景気拡大が続いている。9月のエコノミスト予想によれば、今後も3%台前半の経済成長が続くと見込まれている。ただし、ハリケーンの影響から7～9月期の成長率はやや押し下げられる見通し。こうした景気拡大の持続を反映し、雇用環境の改善（05年に入ってから非農業部門雇用者数は月平均194千人の増加）が続いている。一方、米政策金利は9月20日に0.25%引き上げられ3.75%になった。利上げ継続が示唆されているものの、一方ではハリケーン被害が甚大なことから利上げ打ち止め観測も浮上している。

国内経済

わが国では、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、緩やかに景気が回復している。4～6月期の実質GDP成長率（2次速報）は前期比+0.8%（年率+3.3%）と、3期連続のプラス成長となった。しかし足下7月の生産は、電子部品・デバイス等ハイテク関連業種での在庫調整が進捗しているものの、横ばい傾向で推移。一方、設備投資は企業収益の改善を受け緩やかに増加しており、機械受注は7～9月期も増加する見通し。

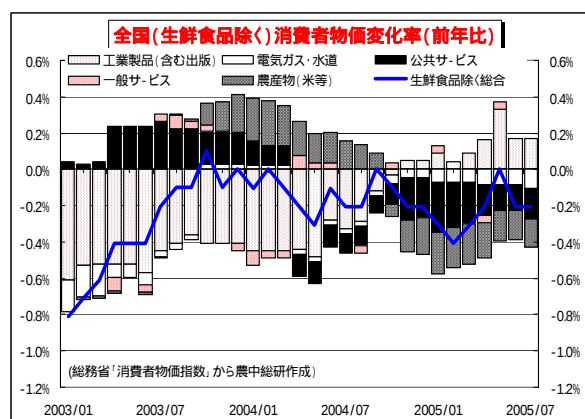
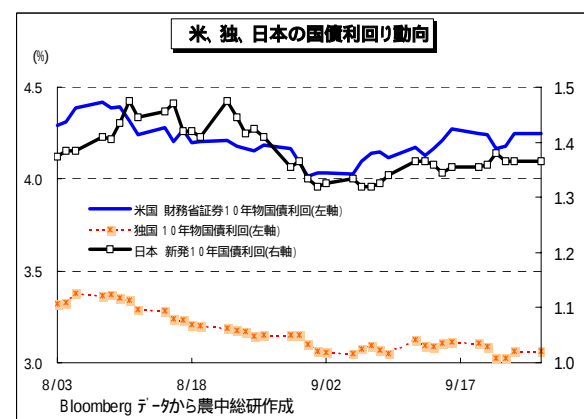
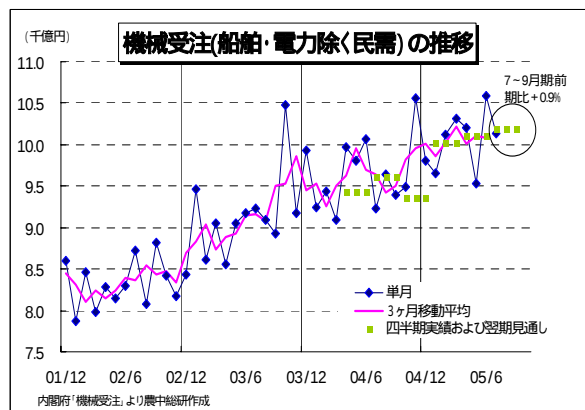
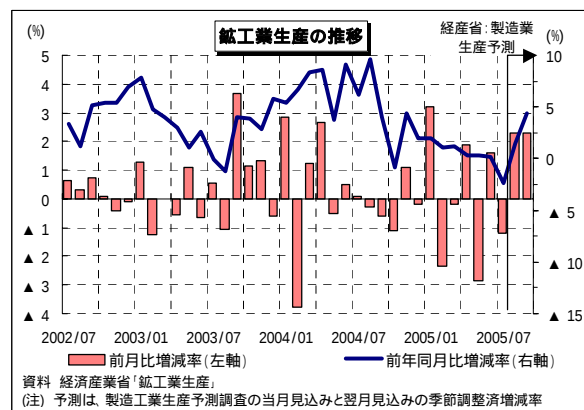
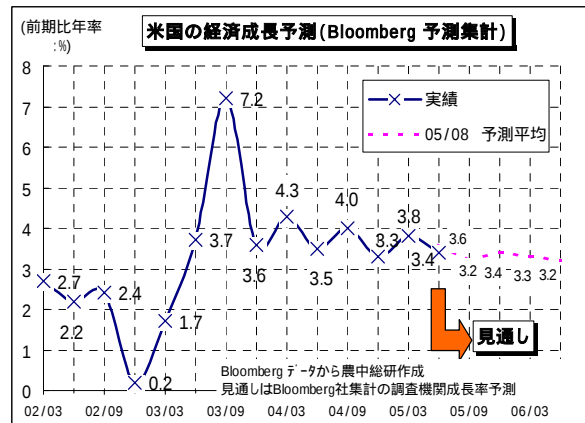
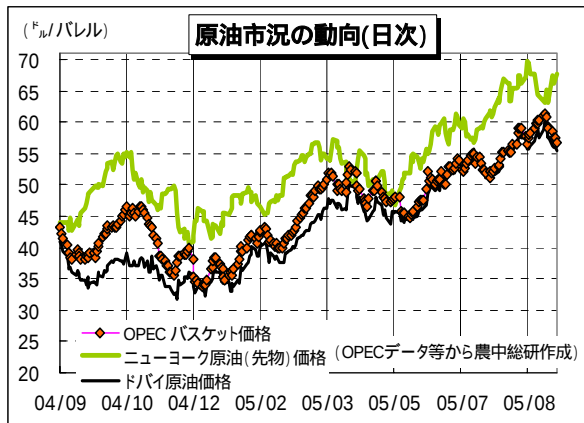
為替・金利・株価

外国為替市場では、対米ドル円相場が株価上昇やハリケーンの影響による米景気減速懸念等から円高方向に動く場面もあったが、このところは112円付近で推移している。日本の長期金利の目安である新発10年国債利回りは1.3%台後半に小幅上昇して推移。一方、消費者物価は小幅下落をたどっているが、原油高に加え特殊要因の剥落から先行き上昇する見通し。日経平均株価は、国内景気回復や構造改革続行への期待感から続伸し、9月20日には4年3ヶ月ぶりに1万3,000円台を回復、年初来高値を更新した。

政府・日銀の景況判断

政府は9月の「月例経済報告」で景気判断を据え置いたものの、個別項目の判断では設備投資（2年ぶり）などを上方修正した。一方、日銀は9月の景況判断を2ヶ月連続で上方修正。政府・日銀ともに「景気の踊り場脱却を裏付ける結果」との見解を示した。

内外の経済金融データ



(詳しくは、ホームページ-トピックス-(今月の経済・金融情勢) <http://www.nochuri.co.jp> へ)